

大網ロータリークラブ Club Weekly Bulletin

よいことのために手を取りあおう

- クラブ創立：2000年1月13日
- 例会日：水曜日（12：30～13：30）
- 例会場：中部コミュニティセンター
TEL 0475-73-3337 FAX 0475-73-4360
- 事務所：〒299-3251
大網白里市大網 450-6 ユアサビル 2階
TEL 0475-70-0200 FAX 0475-70-0222
- 会長：吉原 久男 幹事：渡邊 孝太
- 広報・公共イメージ
向上リーダー 星野 実

2026年4月1日(水)
第27巻 第26号

通巻第1147号

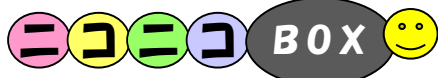
ホームページ
<http://www.oamirotary.com>
E-mail
rc@oamirotary.com
Instagram
<https://www.instagram.com/oamirotary?igsh=MTRzenBxZZ2oyOHJwMA==>



本日の例会

点 鐘 会長 吉原 久男
唱 和 四つのテスト
ソ ン グ 奉仕の理想
会長挨拶 会長 吉原 久男
幹事報告 幹事 渡邊 孝太
プログラム

1. 委嘱状交付式 坂本元美カウンセラー
2. 4月誕生祝い 吉原会長、高山会員
3. 理事会報告



嶋村 文男様 (東江戸川 RC)

新モンゴル学園の卒業生を受け入れていただき、ありがとうございます。感謝の心でニコニコします。

鈴木荘一様・福田順也様・宮嶋慎様 (君津ロータリークラブ)

ありがとうございます。

吉原久男会長

嶋村パストガバナー、君津ロータリークラブの皆様、モンゴルの学生の皆様、ようこそ大網ロータリークラブへ！

会長挨拶

吉原 久男



みなさんこんにちは。本日は君津ロータリークラブさんが、今年大学に入るモンゴルの大学生 17名を連れて例会に参加していただきました。ありがとうございます。会場が狭く、少し窮屈ではありますが、今日はよろしくお願い致します。日本とモンゴルの関係は、相撲などを通じて交流がありますが、大網ロータリークラブの我々は、まだ行った事がありません。“近くて遠い国”日本からは約5時間位で行けますので、皆さんが良く行く事の多いタイと比べると、近いのではないのでしょうか。

モンゴルの面積は日本の約4倍で、人口は350万人位。人口のほとんどがウランバートルに集中していますので、近年は車の渋滞、また、大気汚染が問題となっており、かつての都であるカラコルムに移転計画を進めており、2030年までに新都市建設を目指しています。

また、日本から自動車機械製品、部品などが輸出されており、モンゴルからは織物、繊維製品、鉱物資源を輸入しており、貿易支出は日本の黒字となっています。日本人がモンゴルを訪れて困る事は、トイレではないでしょうか。首都は近代化が進んでおりますが、遊牧民の住まいであるゲルでは、外でしなければならず、冬場は-30℃や-40℃の世界ですので大変な思いをするのではないかと思います。

最近は暖房設備も整っているのかもせれません。モンゴルは降水量も少なく、水は貴重でありますので、無駄遣いは出来ません。お風呂は勿論、シャワーも使えず、タオルで拭く生活です。

日本からの旅行の現地ツアーは、ゲルで遊牧民の生活の体験と、乗馬体験がメインとなっており、その他には世界遺産を巡るツアーが主流となっているようです。大網ロータリークラブの会員の息子さんが、モンゴルに現地法人を作って日本のお米を輸出しています。最近では、中国との関係がギクシャクしておりコンテナが通過地点の中国で足止めされており、通関で日本を出国してしまった為、日本にまた戻すには自分の物でも、輸入になってしまうと言う事で余計な費用がかかります。早く中国から輸出が再開できる事を願い挨拶とします。



3月21日(土) 第1回
会長エレクトラーニングセミナー
次期石田ガバナー補佐と、齋藤幸男
会長エレクトがご参加されました。

子ども食堂 寄付金贈呈式

ひすいかい子ども食堂の寄付金の
贈呈式が行われ、吉原会長より、大
越会員へ手渡されました。



3月29日(日)に
子ども食堂が開催されました。
次号にてご報告させていただきます。

出席報告

例会日	3月18日	2月25日
会員数	25	25
出席	17	13
欠席	3	5
M U	0	0
免除	5	6
出席率	88%	76%



東江戸川ロータリークラブ
パストガバナー 嶋村 文男様

君津ロータリークラブ
鈴木 荘一様
福田 純也様
宮崎 慎 様



モンゴル人学生の皆様 17名

大網ロータリークラブを訪問していた
だき誠にありがとうございました。
モンゴルのお土産を沢山いただき
感謝いたします。
またいつでも歓迎致します。

卓話



『助けられる人から助ける人へ』
防災士 糸日谷 美奈子様

岩手県で中学校理科教師として11年間勤務
2013年 夫の地元である千葉県に移住
2016年 わくわく実験工房設立
2019年 防災士取得
2021年 学校防災アップデート大作戦 開催
マチナカ菜園 設立

震災当時は、釜石市の釜石東中学校に勤務をしており
中学生と共に被害に遭い、津波から逃げ、1週間ほどの避難所生活をご経験
された糸日谷さん。

災害時、あなたは助けられる側？助ける側？
との質問に、挙手をする会員は約半々で二つに分かれた。
この会が終わる時に助ける側だと思っていただけると嬉しいです。と卓話を
始めて下さいました。

震災当日、避難訓練とは全く違っていただけそうで、停電の為、校内放送が鳴ら
ずに逃げ遅れた生徒や、怪我で避難ルート通りに逃げられない生徒、恐怖か
ら過呼吸を起こして倒れてしまう生徒もあり、普段から訓練をしていても、
早急に避難する事は難しかったそうです。第一避難場所に到着したが、先生
方の判断で普段の避難訓練での最終目的地である第二避難所へ避難を決定。
到着は地震発生から約30分後でした。その時、ゴゴゴと音が聞こえ、町か
ら煙が見え、迫りくる津波にこれ以上どこに逃げていいか分からずパニック
に陥ったそうです。実際の津波の動画もを見せていただき津波の恐ろしさを体
感しました。避難所生活の苛酷な様子や、精神的にも大変な思いをした事を
話してくださいました。教えていただいた地域防災計画を活用して、もしも
の時に備えたいと思いました。貴重なお話ありがとうございました。